

武蔵野市第六期長期計画策定委員会
圏域別意見交換会（中央）

日 時：平成 31 年 2 月 11 日（月） 午後 2 時～午後 4 時

場 所：芸能劇場 2 階小ホール

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、中村委員、松田委員、保井委員、笹井委員、恩田委員

欠席：栗原委員

事務局が、討議要綱、意見交換会の進行、意見の扱い、今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換がなされた。

【市民 A】 女子大通りは歩道が狭いので、拡幅する案が出ている。私は、道路が狭いのなら、一方通行にすればいいのではないかという意見を市のほうに話したら、「東京都に言っておきます」と言うから、「言っておきますじゃないでしょう」と言った。車道は東京都のものかもしれないが、歩道の 99% は市民が使っているのだから、市として、あそこを一方通行にすることを東京都へ申し上げておきますなどという、昔の家来がお殿様に言うような感じはけしからんと思う。周辺住民を立ち退かせて、営業権も生活権も全部奪って広げるということであれば、何十年かかるかわからない。

道路は車のためでもあると同時に、住んでいる住民のためでもあるのだから、市民の代表の武蔵野市役所は、東京都に要請してほしい。

【A 委員】 ここに関して、どんなオプションがあるのかというところまで突っ込んだ議論は、まだこの委員会の中でできていない。歩道が狭く、安全性や防災性に課題がある女子大通りで、歩行者を優先した道づくりをしたいということは共有している。

都道だということで、都に言うことしかできないのかと言われることもよくわかるが、ただ市役所の方も、都に対してやれと命令はできない。そこは十分なコミュニケーションをとりながらやっているとは私は認識をしている。

【市民 A】 要請はできるのではないか。市役所は市民の代表だ。

【A 委員】 今言われたことは認識しており、ここにも、歩道の狭さ、安全性、防災性の課題について、確実な事業着手を都に要請すると書いてある。

ただ、一方通行なのか、もう既に始まっている拡幅なのか、このオプションについては、今までの議論の経緯もあると思うので、勉強させていただきたい。

道路はネットワークなので、変えるということは、いろんなデータを取りながら、どれが適切か、全体で考えていかなければいけない。

【市民 A】 五日市街道が並行してあるのだから、ここで回れば、十分できるはずだ。

【B 委員】 四軒寺の交差点で進められているのは、四軒寺から 200 メートルの範囲に専用の右折車線をつくり、また、歩道の環境が悪いので、それを 3.5 メートルに広げて、バリアフリーの機能を高めようという事業を東京都がやっている。四軒寺の交差点では、右折を待っていると、渋滞が発生するという状況もある。

【市民 B】 児童館の件で、21 ページ、「現在の事業に加え、未就学児を対象とした事業を拡充する」とあるが、第五期長期計画・調整計画からこれまでの間に、未就学児へのプログラムはかなり増えたと思う。今後、拡充するのは一体どういう事業なのか。

中高生は児童館に行かないと思われているかもしれないが、武蔵野プレイスの地下 2 階を見ると、そうでもない。日本各地で中高生が主体的に参加できる施設の評判がいいと聞く。武蔵野市も中高生の居場所、主体的に活動できる場所をつくったほうがいいのではないか。

【副委員長】 中高生と子どもがふれ合う空間が、武蔵野市の中で実は余らない。児童館は 0 歳から 18 歳までが対象なので、そういった場があることは、武蔵野市に児童館がある意義の 1 つとして、前回の第五期長期計画・調整計画のときから既に議論があり、残していくということで現在もその形になっている。このあたりは今後もいろんな情報を集めながら考えていきたい。

【C 委員】 「拡充する」というのは、子育て支援の事業を充実するためには、年齢を区切るよりも、乳幼児親子の居場所の提供や保護者同士の情報交換、子育てを楽しめるような交流の場も含めて、児童館でそういう機能を付加できないか検討している。今、第五次子どもプランを策定中なので、その議論の推移を見守りながら、第六期長期計画にもフィードバックしていこうと考えている。

【市民 C】 策定委員会について、どういう経緯でこういう組織をつくったのか。

【企画調整課長】 武蔵野市の長期計画は、昭和 40 年代の第一期長期計画のときから 50 年近く、市民である策定委員会の委員が、市民自治で計画をつくっていくスタイルでやっている。実務担当者として副市長が 2 名、公募

市民委員が2人、あとは市内在住の学識経験者で、規模としては大体10～11人である。

【市民D】 町会に参加している世帯は60～65%で、10年前は70%を超えていたが、だんだん減ってきた。

西久保では地域フォーラムはほとんど機能してない。いろんな団体があって、コミセンを中心として、協働でいろんなことをやっているが、顔なじみだから一緒にやろうという形で、地域フォーラムとして動いているという意識はない。地域フォーラムをもっと進めるのであれば、進め方を考えないと、実体はついてこないことになる。ほかの地域の情報も全然流れてこないのも、市のほうで情報を集めて共有できるような動きをやらないといけないのではないか。

【副委員長】 武蔵野市には、自発的に参加するコミュニティ協議会がある。かつ、目的別の福祉の会などがたくさんある。地域によって、非常に連携がとれているところもあれば、バラバラなところもある。そういった中で、お互いが情報共有をしていく場をつくる必要があるだろうという形で、地域フォーラムの提案をしている。

もう1点重要なのは、行政もこれまでは自主三原則があるので、余りかわらないで来たが、行政側からもこういったことをやりたい、考えたいと呼びかけをしている。

おっしゃるとおり、本当にいろんなところで活用されているかというところ、かなりやっているところもあれば、まだというところもある。

地域フォーラムはあくまで1つのツールにすぎず、これで全部解決するというものではなくて、皆様が共有しやすい情報とか、連携しやすい仕組みを考えて、そのときに地域フォーラムが使いやすければ使い、使いにくければ使う必要もない。要は地域フォーラムという場があるから、新しい団体間の連携のあり方を1つのスキームとして提案した。

まだ不十分な部分がたくさんあると思うので、そのあたりは我々も勉強したいし、皆様ともその情報を共有したい。

【C委員】 「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会提言」では、地域で目的別・課題別に活動している人たちと、地域のコミュニティ協議会の人たちの1つの「協議の場」として、地域フォーラムを提案していただいた。地域の福祉の問題等で地域ごとの課題が焦点化しているところは、活発に集いがあると聞いている。

【市民D】 この資料の中で2点、違和感がある。

まず8ページの将来人口推計について、趨勢期間が2013年から2018年で、これをベースに延ばしているのかとも考えられるが、そもそも国全体では2053年に1億人割れが見込まれている。このように人口が増えていくのか疑問だ。

30ページの4)①の3行目に「多大な費用負担が見込まれる」とある。その下に、歳入についてはいろいろ説明しているが、「歳出面では」は3行しか書いてない。歳出の管理のほうが重要ではないか。

【D委員】 人口推計を正確に予測するのは極めて難しい。シナリオ分析をしていくしかないのではないか。

武蔵野市は、全国の市町村の中でトップ10の中に入るほど、財政余力がある。今までのような、ため込めるだけため込んでいけば安全だという発想ではなく、武蔵野市の成長に必要な支出はかけていくといった積極姿勢は個別分野で書いている。

一方で、歳出をどう管理していくのかも重要で、公共施設等総合管理計画とリンクして考えていくしかなかろうと思っている。特に大きなものは小・中学校の建てかえのところで、ここも需要予測はかなり難しい。人口が社会流入増になっていて、子どもが増えていくという側面と、中学校に関しては、地元の公立中学校の進学率が低下していて、私立や国公立に進学している子どもが増えているという両方向の影響があり、あくまでもシステムとして管理をしていくという書きぶりが適正なのではと考えている。各支出に関しては、市議会の予算の承認のもと、ガバナンスは働いていくだろう。同時に、大規模な公共事業計画に関しても、各計画に基づいて実行していくため、その計画をつくる中で市民意見の募集やそれを踏まえて市また専門家の意見を踏まえて、公共施設をどう整備していくのかというガバナンスもかかっていると考えている。

【市民E】 私はけやきコミセンに属している。自分たちでいろんなことを考えて行動することが最初から身についていた場所だったので、楽しみながら活動できた。クリーンセンターという大きな題材があって、市民と一緒に考えてつくり出す時間を持つことができた。

ただ、現在のけやきコミセンはとても不満に思っている。考えて、楽しんで活動するところに早く戻りたい。活動が中心になって、新しいものを受け入れる場が少なくなっている。その辺の検討をお願いしたい。

【委員長】 武蔵野市はコミュニティセンターが16もあって、PTAなど

の関係で、コミセンの運営にかかわっている人も多い。学校や会社と行き来していて家には寝に帰るだけみたいな人たちもいる中で、コミュニティにどう新しくかかわっていくかという部分は、正直難しい。

公立の小・中学校でかかわってきた人は抵抗なく入れるが、途中から来た人たちをどのようにすれば巻き込んでいけるだろうか。

【市民E】 やっぱり一本釣りが一番で、魅力的と思ったらとにかく声をかけて、いろんな話をしている。

【D委員】 地方創生の人たちと話をしていると、若者の巻き込みは大学生では遅い、小学生からの巻き込みがすごく重要で、そういう面においては、武蔵野市の持っているコミュニティセンターは極めて重要なインフラで、ここが将来の武蔵野を支える人材輩出の1つの要になる。今後の議論において、コミュニティセンターの積極評価をしていくべきだ。

クリーンセンターは、決して市がつくった立派な施設ではなくて、コミュニティの方と市がすごくいい形で、最後は協働してつくり上げたプロジェクトだと認識している。

【市民F】 今、武蔵野市は子どもの数がすごく増えていて、教室が足りなくなってきた。人口も増えている。ところが、総務省は将来的に人口が減って、過疎の自治体が増えていくとしている。総務省の言うことと武蔵野市の現状についてのご意見を伺いたい。

【D委員】 国のほうの地方創生に関しては、人口が減少、特に子どもの数が減少していて、将来の地方公共団体の構成要素である、バランスある適正な人口数が確保できない懸念が高まっている。その結果、財政的な破綻が心配されている。したがって、近隣市町村が連携して行政サービスを相互に融通したり、新しい産業も興して、何とか自立の道を探っていくことになる。

武蔵野市はどれも当てはまっていない。10平方キロメートルの中に13万人が住んでいて、交通インフラもしっかりある。極めて恵まれた環境下にあるので、前提が全然違う。武蔵野市は独自のモデルを追求していくことができる。

この結果、極めてレベルが高い地方自治、地方行政に邁進できる、それだけの余力がある。無謀なことをしない限り、財政的にも十分なもので、将来に対する投資もできる。

問題なのは、それを支えていく市民の方たち、特に皆さんのようにボランティアで参加されている方たちがちょっと疲れてきているので、それをどうやって行政としてサポートし、継続していくのか、次の担い手を生み出して

バトンタッチをしていくのか、そこが大きな課題だ。

同時に、武蔵野市の職員も、ものすごい残業時間となっており疲弊している。市民と協働するというのは、市民も市職員もお互いが大変になっていくと思われるが、レベルが高い地方行政をやるためには、トライしていかないとはいけない。

ただ、市の職員も限界いっぱいまで来ているというのが私の問題意識で、業務の効率化で切り捨てていく業務をつくっていくこと、場合によっては職員数を増加させてもいいと思っている。

【市民E】 行政として、武蔵野市の魅力をどのように伝えていくのか。武蔵野市にはこんなに魅力があるという計画をぜひ持ってもらいたい。

【委員長】 魅力が発信できていないというのは、この策定委員会の中でもよく話題になる。活動している人も知らないようなことを実はやっていて、誰も知らなくてやった気になっているみたいなどころもある。そのためにも、3ページの「基本的な考え方」で「情報共有の原則」を掲げた。効率的、効果的に、本当に届く共有の仕方を考えていかなければいけない。

【C委員】 武蔵野市を選んで住んでいただいた市民の人たちに、武蔵野市のアーカイブを伝える作業、魅力を伝える作業が絶対必要で、それは市民だけではない。若い職員の中にも、どうしてムーバスができたか背景や経過を理解していない職員もいるのではないか。外出困難になった高齢の女性からの手紙をきっかけに、いろいろ検討を重ねてムーバスができた。

あ のとき、虚弱の高齢者の実態調査をしたら、100メートルくらいは何とか歩けるけど、200メートル以上になると歩けない。だから、どちらか近いバス停までは歩行可能だろうと想定して、バス停は200メートル間隔にした。だけど、単に交通空白地域にバスを回していると考えた全国の多くの市町村は、バス停の間隔が200メートル以上になっている。武蔵野市がなぜコミュニティバスをつくったかという原初のところがわからないと、事業の本質がわからない。

テンミリオンハウスにしてもレモンキャブにしても、共助・互助の思想や介護保険制度を補完するなど、それぞれの事業には企画立案に至る思想や背景がある。武蔵野プレイスは新しい施設なので、事業コンセプトを皆さんはまだ覚えているけれども、そのうち、武蔵野プレイスができた背景とか思想を、みんな忘れる時代が来る。そういう意味では、武蔵野市を選んでいただいた人たちと働いている人たちに、事業の背景や思想も含めたことをきちっと伝承していく必要性を感じている。

【市民B】 児童館について、小中一貫のメリットの1つとして、多世代交流、異年齢交流が出てきたが、異年齢交流は学校でプログラムを設定して与えるものではなく、遊びの中や生活の中で、いろんな世代とふれ合うことが大事だ。そういう面で児童館の0歳から18歳、中高生の居場所としての役割もぜひ考えていただきたい。

前市長のときに、武蔵野市にはコミセンがあるから子どもたちはコミセンへ行ってくれと言われた。しかし、実際にコミセンをやってみて、コミセンは児童館の役割を補うことはできない。コミセンの中には、子どもの権利条約とか児童福祉といった考え方は全くない。

地域フォーラムは、西部地域のコミセンではなかなかできていない。その原因というかベースにあるのが、学びがないことであり、学びの習慣もなく、学びと生活が結びつかないところである。武蔵野市は社会教育にもう少し力を入れたほうがいい。そんな状況で地域フォーラムのことを言っても、ちょっと無理かなと思う。

武蔵野の森を育てる会では、毎年近隣の自治体にある雑木林の管理について研修に行っている。東京なので、そんなに大きい雑木林はないが、一番似ていると思われる西東京市の例について、我々の経験談をペーパーにしたので、参考にしてほしい。

【副委員長】 ご指摘のとおり、児童館には多世代、異年齢で交流できるメリットがあることは承知しているので、今回は桜堤児童館を前回のよう0123 化するなんてことは書いてなくて、むしろ拡充していきたいと書いている。

コミュニティセンターに子どもたちも行き、多様な活動ができ、大人とも交流できるというのが理想であることは事実だが、目の前にいる子どもたちが異年齢交流できる場としての児童館の重要性はあると感じているので、今後もしっかりと支えていきたい。

地域フォーラムに学びがないという点について、行政の役割として学びの機会の提供が必要であるということを指摘し、「コミュニティ未来塾むさしの」のような動きも始まっている。とはいえ、それだけですぐに一朝一夕で解決する問題ではないので、皆さんの学びの場を多様につくっていきながら、それを地域に生かしていけるような学びを提供することは、今後も広げていく必要があると感じている。

【E委員】 一連の話を聞いていて、地域の小学校または中学校の区割りを利用し、地域の人にとにかくコミットしてもらって、連携を強めていくこと

が非常に大事だと思った。そうすることによって、防災に強くなり、地域の子どもの学習以外のケアが行き届くようになる。

雑木林の件で、武蔵野市は 18 億円かけて雑木林を私有地から買ったことを聞いた。これはすばらしい決断だと思う。武蔵野市は財政豊かなのだから、今後も緑を減らさない努力をすべきだ。

こんなにお金をかけているのだから、メンテナンスもするのは当然のことだが、皆伐については、逆に切ってほしくないという人も地域にいると思う。専門家及び地域の人たちのコンセンサスをとっていくのがいいのではないか。

【市民 A】 先ほどの女子大通りについて、私が質問したことに対して、要請はしていると言われたのは、27 ページの下の方の「女子大通りについては、確実な事業着手を都に要請する」、このことだと思う。私は、一方通行にしろという変更を要請してくれと言ったので、都の計画を推進することを要請するということは、私の言っていることと反対だ。

しかも、そのときの答えの中には、右折車のために道路整備をしているなどと、出てくるのは車の話ばかりだ。私は、歩行者のためを考えてほしいと言っている。あの女子大通りの歩道は車椅子で通れない。立ち退かせて、何千億円の補償金を払うよりは、片側通行にしたら、道路整備等だって 1 億円かからない。

高齢者がどんどん増えてくるのに、車のことしか頭の中に入らない。右折車のために道路を直している。それより先にやることがあると私は言いたい。

もう 1 つ、キックスケーターを普及させたらどうか。駐輪場は駅の近くにある。キックスケーターは自転車の 10 倍の収容能力があるから、駅の近所の駐輪場が空いてくる。そうしたら、そこへ幼稚園でも保育園でもつくればいい。十何年たって、少子化で幼稚園も保育園も要らなくなったら、それこそ商店街に払い下げるなり、J R なんかテナントにしたら儲かるから、喜んでやってくれる。キックスケーターだったら、帰宅困難者が減る。電信柱が倒れていたって乗り越えてまた走ればいい。

【B 委員】 地域の方々からも、歩道の問題は提起されている。先ほど四軒寺の交差点での事業について話をしたが、これは単に右折車線だけの問題ではなく、歩行環境の問題もあって、それで 3.5 メートルの歩道を取りつけるという形になる。車椅子が行き来できる、あるいは乳幼児も安心して歩ける道路空間をつくっていくということで、地域の要請も含めて、東京都の事業として現在やっていると認識している。

【市民 A】 一方通行については検討したのか。

【B 委員】 道路ネットワークの関係からすると、日に 5,000 台も入る道路を一方通行にすると、ほかにその車が行ってしまっていて、そこでまた渋滞を招くことになるので、一方通行はなかなか難しい。

【市民 D】 武蔵野市に財政力があるのはわかるが、将来を見据えた計画をつくってほしい。

歳出の面で、人件費や物件費は見直す余地があるのではないかな。それを踏まえて、将来迎える高齢化社会にどうまちづくりをするか。武蔵野市なら、この豊かな自治体なら、直下型地震や大震災があっても、あるいは日本の財政破綻があっても大丈夫、そのような計画をつくってもらいたい。

【D 委員】 支出のところで、人件費、物件費の話はかなり出ていた。確認する、チェックをすることは重要だが、一方で、武蔵野市の職員の残業時間は、東京都においても突出している。しかし、彼らが非効率な仕事をしているとは決して思えない。

もし人件費を削減していくのであれば、武蔵野市が抱えている各業務のスリム化を同時に進めないとこれは成立しない。その結果として、市が提供している公共サービスの水準の低下を市民が受け入れるのであれば、それはできる。ただ一方で、市民は今の高い公共サービスの提供を引き続き望んでいる。

人件費、物件費をただ一方的に削減すればいいということではなくて、適正な水準が一体どこなのか、もう一回委員会の中で検討したい。もし削減するのであれば、公共サービス水準の低下も享受していけるのかといった議論と複合的に考えていく必要がある。

【市民 C】 武蔵野市の開発と自然保護のバランスというのがいろいろあると思う。境南町の農地がどんどんマンション化している。財政力豊かな市であれば、雑木林とか独歩の森とかはある意味守りの姿勢であり、自然を保護するために積極的に努力してほしい。

こういう会合を一部の人しか知らない。ペーパーとかいろんなメディア、例えば J : C O M で P R していかないと、市民の中に浸透していかない。

それと、こういうメッセージをもっとアグレッシブに、アクティブに一般の市民の方々に P R していくコーディネーターとかかメッセンジャーが必要ではないか。

【副委員長】 境南町に限らず、多くのところでマンションが増えている状況がある。さらに、生産緑地が 2021 年に指定解除になる。国のほうも仕組

みを若干変えて延長できるようにしているが、今の地権者が亡くなって相続が発生すると、それを買取りたいと思っても、とてつもない金額になる可能性が高い。

武蔵野市は、マンションが建つにしても、高さ制限等をしっかりかけて、住環境が著しく悪化しないような仕組みを幾つも導入している。どうやってみんなで緑を守っていくのか。経済原理になかなか勝てない部分もあるが、我々としてはやっていきたい。

【企画調整課長】 市政情報の提供で、一番市民の皆さんに見ていただけるのは市報むさしのである。アンケートの中でも、圧倒的にここから情報をとっている方が多い。市報は全戸配布しているので、これが我々としてできる一番現実的で最適な方法だ。

あと、ホームページとか J : C O M、フェイスブック、ツイッターなど、使えるものはやらせていただいている。引き続き、いろいろ考えていきたい。

【副委員長】 生活支援コーディネーターや福祉に関するコーディネーターの方々は、情報発信より地域の福祉資源を開発したりつないだりすることが仕事だが、必要な場合には、関連する部分にもご支援をいただいている。

私もよくそういう会議に出席するが、市民の方々に、地域でこういう活動やこういう場、こういう議論があるということをできるだけ伝えるようにしている。なかなか周知が徹底しない部分は問題なので、我々としてはやっていきたいと考えている。

【市民 E】 市の職員がとても残業が多いという話を聞いた。これは防災とも絡んでくるが、市の職員の独身寮とか、どうなっているのか。

東日本大震災のときに、職員としては残らなきゃいけない、けれども家にも帰りたい、それはどの人もそうだったと思うけれども、家が遠い人は帰るに帰れなかった。だとすると、市の中に住んでもらえるところを市民としても考えてもいいのではないか。

【B 委員】 市内在住、特に独身寮に入る職員は初動要員として各避難所に駆けつけるシステムになっている。ただ、市内在住者は今 2 割くらいで、急な災害等があったときは楽観できない状況だ。

【D 委員】 私は仕事柄、いろんな市町村の方と接しているが、武蔵野市の職員は、私が知る限りにおいて、日本でもトップ級の人たちなので、そこは市民としては大変うれしい話だ。

同時に、仕事量もかなりすごい。このままでは許容量を超えてくるので、何かを捨てに行くか、もしくは行政能力の量の拡大を図らないといけない。

【委員長】 言い足りないことは書面でお出しいただきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、圏域別意見交換会を閉じた。

以 上